

人との接し方についてレビ記から学べること

「仲間を自分自身のように愛さなければならない」。[レビ記 19:18](#) 隣人に復讐をしたり、恨みを抱いたりしてはならない。仲間を自分自身のように愛さなければならない。私はエホバである。

[109 番の歌](#) 心から熱烈に愛しましょう

何を学ぶか*クリスチャンはモーセの律法を守る必要はありませんが、そこには私たちがすべきことやすべきでないことが述べられています。そこから学んだ点を当てはめるなら、人に愛を示し、エホバに喜んでいただくことができます。この記事では、[レビ記 19 章](#)から学べる大切な点を幾つか取り上げます

1-2. 前の記事ではどんなことを学びましたか。この記事ではどんなことを考えますか。

前の記事では、[レビ記 19 章](#)から大切な点を幾つか学びました。例えば3節各自、母と父を敬い(*恐れ)なさい。また、私の安息日を守りなさい。私はあなたたちの神エホバであるには、エホバが親を敬うよう命じていることが述べられています。私たちは、身体面や感情面、またエホバに仕える面で親を助けることによって、親を敬うことができます。同じ節には、安息日についても述べられていました。私たちは安息日を守る必要はありませんが、エホバについて学んだり伝えたりするための時間をきちんと取り分けることができます。こうしたことを行うなら、[レビ記 19 章 2 節](#)イスラエル人の民全体に告げなさい。『あなたたちは聖なる人であるべきである。あなたたちの神である私エホバは聖なる者だからであるやペテロ第一 1 章 15 節皆さんを招いた聖なる方のように、何をするにしても聖なる人であってくださいにあります通り、聖なる者になるよう努力していることになります。

2 この記事では、引き続き[レビ記 19 章](#)から学びます。①体が不自由な人に思いやりを示すことや、②仕事の面で正直であることや、③人に愛を示すことについて考えます。エホバに倣って聖なる人であるためにはどうしたらよいか、考えていきましょう。

①体が不自由な人たちに思いやりを示す



レビ記 19 章 14 節を考えると、耳が聞こえない人や目が見えない人にどのように接するよう動かされるか。（3-5 節を参照。）*写

真や挿絵：耳が聞こえない兄弟が医師と会話するのを 1 人の兄弟が助けている。

3-4. レビ記 19 章 14 節によると、イスラエル人は耳が聞こえない人や目が見えない人にどのように接するべきでしたか。

3 レビ記 19:14 耳が聞こえない人ののしったり(*に災いがあるようにと言ったり), 目が見えない人の前に障害物を置いたりしてはならない。あなたの神を畏れなければならない。私はエホバであるを読む。エホバは、体が不自由な人に対してイスラエル人が思いやりを示すことを願っていました。例えば、イスラエル人は耳が聞こえない人ののしってはなりませんでした。そうした人を脅したり, 災いがあるようにと言ったりしてはいけなかったのです。耳が聞こえず, 何を言われても言い返せない人にそんなことをするのは, 本当にひどいことです。

4 レビ記 19 章 14 節でエホバはさらに、「目が見えない人の前に障害物を置いたりしてはならない」と命じています。ある資料によると、「古代の中東では、体が不自由な人は食い物にされたり虐げられたりすることが多かったよう」です。思いやりがない人が、目が見えない人の前に障害物を置いて意地悪をしたり笑いものにしたりすることがあったのかもしれません。なんとひどいことでしょう。エホバは、レビ記 19 章 14 節の命令を与えることによって、体が不自由な人に思いやりを示すべきことをイスラエル人に教えました。

5. 体が不自由な人に、どのように思いやりを示せますか。

5 イエスは、体が不自由な人に思いやりを示しました。ある時、バプテストのヨハネに次のような伝言をしました。「目が見えなかつた人は見、足が不自由だった人は歩き、重い皮膚病の人は治り、耳が聞こえなかつた人は聞き、死人は生き返[つ]っています」。イエスの奇跡を見た人々は皆、「神を賛美し」ました。（ルカ 7:20-22 その人たちはイエスの所に来て、言った。「バプテストのヨハネに遣わされました。お尋ねします。『あなたが、来ることになっている方ですか。それとも、別の方を待つべきでしょうか』」。21 その時イエスは、重い病気を含めさまざまな病気の人や、邪悪な天使に取りつかれた人を大勢治し、目が見えない多くの人に視力を授けていた。22 そしてこう答えた。「行って、見聞きした事柄をヨハネに報告しなさい。目が見えなかつた人は見、足が不自由だった人は歩き、重い皮膚病の人は治り、耳が聞こえなかつた人は聞き、死人は生き返り、貧しい人には良い知らせが告げられています；18:43 すると、その人はたちまち目が見えるようになり、神をたたえつつイエスの後に従うようになった。人々も皆、これを見て神を賛美した）私たちクリスチャンはイエスの手本に倣いたいと思っています。それで、体が不自由な人に親切や思いやりを示し、穏やかに接するようにします。もちろん私たちは、エホバから奇跡を行う力を与えられてはいませんが、文字通り目が見えない人や真理を知らない人たちに良い知らせを伝える務めを託されています。その良い知らせとは、パラダイスで人間が皆、健康になり、エホバとの絆を持つことができる、というものです。（ルカ 4:18 エホバの聖なる力が私の上にある。神が私を選び(d*に油を注ぎ), 貧しい人に良い知らせを告げるようさせたからである。私は神から遣わされて、捕らわれている人に釈放を, 目が見えない人に視力の回復を知らせ、打ちのめされた人を解放し,) 多くの人は、それを聞いて神を賛美するようになっています。

②仕事の面で正直である

6. レビ記 19 章は、十戒の内容をさらに理解する上でどのように役立ちますか。

6 レビ記 19 章の幾つかの節では、十戒の内容が詳しく説明されています。**8番目のおきて**には、「盗んではならない」とあります。（出 20:15 盗んではならない）中には、人の物を取らないようにしていればこのおきてを守っていることになる、と考える人がいたかもしれません。しかし、**人の物を文字通り取らなくても実際には盗んでいる**ということがあり得ました。

7. 商売をしている人は、どんなことをすると、「盗んではならない」という8番目のおきてを破ることになりましたか。

7 商売をしている人は、自分は人の物を取ったことはないので盗んだことはない、と考えていたかもしれません。でも、**取引をする時にいつも正直だったでしょうか。** レビ記 19 章 35, 36 節 長さや重さや量を測定するとき、不正をしてはならない。36 正確なはかり、正確な重り、正確な計量容器を使うべきである。私は、あなたたちをエジプトから連れ出した神、エホバであるでエホバはこう命じています。「長さや重さや量を測定するとき、不正をしてはならない。正確なはかり、正確な重り、正確な計量容器を使うべきである」。それで、**不正確なはかりや計量容器を使って客をだますなら、盗んでいることになりました。** レビ記 19 章をさらに調べるなら、この点をもっとよく理解することができます。



レビ記 19 章 11-13 節からすると、クリスチャンは仕事の面でどんなことに注意できるか。（8-10 節を参照。）

***写真や挿絵:** 塗装の仕事をしている兄弟が従業員に給料を渡している。

8. レビ記 19 章 11-13 節は、ユダヤ人が十戒の8番目のおきての土台となっている考え方を理解する上でどのように役立ちましたか。私たちにとっても、どのようにためになりますか。

8 レビ記 19:11-13 盗んではならず、だましてはならず、互いに不誠実に接してはならない。12 私の名によって偽りの誓いをしてあなたの神の名を汚してはならない。私はエホバである。13 仲間からだまし取ってはならず、奪い取ってもならない。雇った労働者の賃金を朝までずっと渡さずに持っていてはならないを読む。レビ記 19 章 11 節の初めには、「**盗んではなら[ない]**」とあります。そして続く13 節には、「**仲間からだまし取ってはなら[ない]**」とあります。それで、**仕事で不正なことを行うなら、盗んでいることになります。**

ます。十戒の8番目のおきてには、盗んではならないことがはつきり述べられていました。そして、ユダヤ人たちはレビ記を通して、このおきての土台となっている考え方を理解することができたでしょう。エホバが不正直や盗みをどう見ているかを理解することは、私たちのためにもなります。次のように考えてみることができるかもしれません。「レビ記19章11-13節からすると、毎日の生活の中で、特に仕事の面で直した方がよいところがあるだろうか」。

9. レビ記19章13節は、労働者をどのように保護するものとなりましたか。

9 誰かを雇っているクリスチャンは、別の点も考える必要があります。レビ記19章13節の後半には、「雇った労働者の賃金を朝までずっと渡さずに持っていてはならない」とあります。農耕社会のイスラエルでは、1日の終わりに給料を渡すことになっていました。雇われた人はそのお金を使って、その日家族に必要なものを買うことができました。ですから、給料を渡さないなら、雇われている人からお金を奪っていることになりました。エホバも、「その人は困窮しており、生活が懸かっている」と述べています。（申24:14, 15 あなたの兄弟であれ、あなたの町にいるあなたの土地の外国人居住者であれ、雇った労働者で、困窮している貧しい人からだまし取ってはなりません。15 その日のうちに、日が沈む前に、賃金を渡すべきです。その人は困窮しており、生活が懸かっているからです。渡さないなら、その人があなたを責めてエホバに叫び、あなたは罪を負います。 マタ20:8 夕方になって、ブドウ園の主人は責任者に言いました。『労働者たちを呼んで、賃金を払いなさい。最後の人から順に最初の人までです』）

10. レビ記19章13節から、どんなことを学べますか。

10 現代では多くの場合、給料は毎日ではなく月に1度か2度払われます。とはいえ、レビ記19章13節の土台となっている考え方は、今でも当てはまります。雇い主の中には、働いている人がほかに仕事を見つけられないという弱みに付け込んで、本来の額よりはるかに少ない給料しか払わない人もいます。こうしたことを行なう人は、「雇った労働者の賃金を……渡さずに持つてい」るようなものです。誰かを雇っているクリスチャンが、こうした点を思いに留めておくのは大切なことです。では次に、レビ記19章から学べる別の点について考えましょう。

③人を自分自身のように愛する

11-12. イエスはレビ記19章17, 18節からどんな大切なことを教えましたか。

11 エホバが私たちに願っているのは、ほかの人を傷つけないようにということだけではあります。そのことは、レビ記19章17, 18節心の中で兄弟を憎んではならない。仲間と共に罪を負うことがないよう、仲間をぜひとも戒めなさい。18 隣人に復讐をしたり、恨みを抱いたりしてはならない。仲間を自分自身のように愛さなければならない。私はエホバであるから分かります。（読む。）そこには、「仲間を自分自身のように愛さなければならない」と述べられています。この言葉を当てはめることは、エホバに喜ばれたいと思っているクリスチャンにとって大切なことです。

12 イエスは、レビ記19章18節のおきてが重要であることをどのように教えたでしょうか。ある時、パリサイ派の人から「律法の中で最も重要なおきてはどれですか」と尋ねられたイエスは、「最も重要な第一のおきて」は心と知力と自分の全てを尽くしてエホバを愛することだ、と答え

ました。そして、レビ記 19 章 18 節を引用してこう言いました。「**第二も同様で、こうです。『あなたは隣人を自分自身のように愛さなければならぬ』**」。 (マタ 22:35-40 その中の律法に通じた人が、イエスを試してこう尋ねた。 36 「先生、律法の中で最も重要なおきてはどれですか」。 37 イエスは言った。「『あなたは、心を尽くし、知力を尽くし、自分の全てを尽くして、あなたの神エホバを愛さなければならぬ』」。 38 これが最も重要な第一のおきてです。 39 第二も同様で、こうです。『あなたは隣人を自分自身のように愛さなければならぬ』。 40 律法全体と預言者の言葉はこの2つのおきてに懸かっています」) **隣人に愛を示す方法はいろいろあります**が、ここでもレビ記 19 章に注目して調べてみましょう。

13. ヨセフについての聖書の記述は、レビ記 19 章 18 節の理解を深める上でどのように役立ちますか。

13 隣人に愛を示す1つの方法は、レビ記 19 章 18 節 **隣人に復讐をしたり、恨みを抱いたりしてはならない**。 **仲間を自分自身のように愛さなければならぬ**。私はエホバであるの言葉を当てはめることです。そこには、「**復讐をしたり、恨みを抱いたりしてはならない**」とあります。私たちの多くは、同僚やクラスメートや親族や家族に恨みを抱いている人の話を聞いたことがあるかもしれません。中には何年も恨んでいるという人もいます。例えば、**ヨセフの10人の兄は、ヨセフに対して恨みを抱き、ヨセフに本当にひどいことをしました**。 (創 37:2-8) 以下はヤコブの家族についての記録である。ヨセフは17歳の時、家畜の群れの番をしていた。兄弟たちも一緒だった。父の妻ビルハとジルバの子たちである。ヨセフは、彼らの悪い行いについて父に伝えた。3 イスラエルは、ほかのどの息子よりもヨセフを愛した。高齢になってできた子だったからである。イスラエルはヨセフのために特別な(*すてきな)長い服を作らせた。4 兄弟たちは自分たちよりヨセフの方が父に愛されているのを知って、ヨセフを憎むようになり、ヨセフと穏やかに話すことができなかつた。5 ある時、ヨセフは夢を見て、それについて兄弟たちに話した。すると兄弟たちはますます憎しみを募らせた。6 ヨセフはこう言ったのである。「私が見た夢について聞いてください。7 私たちが畑の真ん中で作物の束を作っていると、私の束が起き上がって真っすぐに立ちました。そしてみんなの束が私の束の周りに来て、ひれ伏しました」。8 兄弟たちは言った。「おまえは俺たちの王になって支配するというのか」。こうして彼らは、ヨセフが見た夢と言った事柄のために、ヨセフをますます憎んだ。25-28 兄弟たちはそれから食事のために腰を下ろした。目を上げると、ギレアデからやって来るイシュマエル人の商人の一団が見えた。ラダナムゴム、バルサム、樹脂の多い樹皮をラクダに載せて、エジプトに行く途中だった。26 ユダが兄弟たちに言った。「弟を殺してそれを隠したところで何の得にもならない。27 あいつをあのイシュマエル人に売ろうじゃないか。殺すのはやめておこう。俺たちの兄弟、肉親なんだから」。兄弟たちは同意した。28 イシュマエル人(d*ミディアン人)の商人たちがそばを通り掛かると、兄弟たちはヨセフを穴から引き上げ、銀20枚でイシュマエル人に売った。その人たちはヨセフをエジプトに連れていった) しかしヨセフは、**兄たちに仕返しできる立場になった時、そうするのではなく憐れみを示し、恨みを抱きませんでした**。こうして、レビ記 19 章 18 節に沿った行動を取ったのです。 (創 50:19-21) ヨセフは言った。「恐れないでください。私が神だとでもいうのでしょうか。20 皆さんには私に対して悪いことをたくさんましたが、神はそれを良いことにつなげて、多くの人が生き延びられるようにしようと考えました。そして今、実際にそうなっています。21 ですから恐れないでください。私はこれからも皆さんと小さな子供たちに食物を供給します」。このようにヨセフは兄弟たちを安心させ、優しく話した)

14. レビ記 19 章 18 節の土台となっている考え方が今でも当てはまる、と言えるのはなぜですか。

14 ヨセフは、兄たちに恨みを抱いたり仕返ししたりするのではなく、許しました。これはエホバに喜んでいただきたいと思っているクリスチャンにとって手本となっています。ヨセフの行動は模範的な祈りとも調和しています。イエスは、私たちに罪を犯した人を許すようにと教えました。（マタ 6:9 それで、このように祈らなければなりません。『天におられる私たちの父よ、お名前が神聖なものとされますように、12 私たちに罪を犯した人たちを私たちが許しましたように、私たちの罪をお許しください』）パウロもクリスチャンに対して、「愛する皆さん、復讐してはなりません」と言いました。（ロマ 12:19 愛する皆さん、復讐してはなりません。神の憤りに任せましょう。「『復讐は私がすることであり、私が報復する』とエホバ(*)は言う」と書いてあるからです）また、こうも言っています。「引き続き互いに我慢し、寛大に許し合いましょう。たとえ誰かに不満を感じるとしてもです」。（コロ 3:13 引き続き互いに我慢し、寛大に許し合いましょう。たとえ誰かに不満を感じるとしてもです。エホバ(*)が寛大に許してくださったのですから、同じようにしなければなりません）エホバの考えは変わっていません。レビ記 19 章 18 節の土台となっている考え方は今でも当てはまるのです。



文字通りの傷をいじったりするのが良くないのと同じように、傷つけられたことを考え続けるのも良くない。許すよう努力する。

（15 節を参照。）*写真や挿絵：小さな傷はすぐに忘れることができる。大きな傷についても同じようにできるだろうか。

15. 傷つけられても許す大切さをどんな例えで説明できますか。

15 心の傷を文字通りの傷に例えて考えてみましょう。傷には、小さなものもあれば、大きなものもあります。例えば、封筒を開ける時に紙で指を切ってしまうことがあるかもしれません。そうした傷は確かに痛いですが、すぐに治り、1日か2日もすれば、どこをけがしたかも分からなくなります。一方で、大きな傷を負った場合はお医者さんにその傷口を縫つてもらい、包帯を巻いて手当てしてもらうかもしれません。でも、傷口をいじったりつついたりするなら、傷は良くなるどころか悪化してしまうでしょう。心の傷についても同じようなことが言えます。誰かから傷つくようなことを言われたりされたりした場合、それがちょっとしたことであれば、すぐに許すことができるでしょう。でも、深く傷つけられた場合はどうでしょうか。そのことについて何度も考えたり思い出したりするなら、傷口をつついているようなものです。恨みを抱き続けるなら自分を傷つけるだけです。レビ記 19 章 18 節の言葉に従う方がずっと良いのではないでしょうか。

16. [レビ記 19 章 33, 34 節](#)によると、イスラエル人は外国人にどのように接するべきでしたか。この点から、私たちは何を学べますか。

16 エホバはイスラエル人に仲間を愛するよう命じましたが、それは人種や国籍が同じ人たちだけを愛すればよいということではありませんでした。イスラエルに住んでいる外国人にも、愛を示す必要があったのです。この点は、[レビ記 19 章 33, 34 節](#)あなたたちの土地に外国人が一緒に住んでいるなら、虐待してはならない。34 一緒に住んでいる外国人は、あなたたちイスラエル人と同じように見なされるべきである。その人を自分自身のように愛さなければならない。あなたたちもエジプトで外国人居住者だったのである。私はあなたたちの神エホバであるにはつきり述べられています。（読む。）イスラエル人は、外国人に「イスラエル人と同じように」接し、「その人を自分自身のように愛さなければな」りませんでした。例えば、外国人や貧しい人たちが落ち穂拾いをできるようにする必要がありました。（[レビ 19:9, 10](#) 土地の作物を刈り取るとき、畑の端まで刈り尽くしてはならない。収穫の落ち穂(*後に残った物)を拾ってはならない。10 ブドウ園の採り残しを集めてはならず、ブドウ園に散らばったブドウを拾ってもならない。貧しい(*苦しんでいる)人や外国人居住者のために残しておくべきである。私はあなたたちの神エホバである）外国人を愛するようにという教えは、[現代のクリスチヤン](#)にも当てはまります。（[ルカ 10:30-37](#) イエスは答えた。「ある男性がエルサレムからエリコに下っていく途中で、強盗たちに襲われました。強盗は服を剥ぎ、殴り、半殺しにして去ってきました。31 たまたま、ある祭司がその道路を下っていましたが、男性を見ると、道の反対側を通り過ぎました。32 同じように、あるレビ族の人も、そこに来て彼を見ると、道の反対側を通り過ぎました。33 ところが、その道路を通っていたあるサマリア人はそこに来て彼を見ると、かわいそうに思いました。34 それで近寄り、傷に油とぶどう酒を注いで包帯をしてあげました。それから彼を自分の家畜に乗せ、宿屋に連れていって世話をしました。35 次の日、2デナリを取り出し、宿屋の主人に渡して言いました。『この人の世話をしてください。もっと費用がかかったら、戻ってきた時に払いますから』。36 この3人のうち誰が、強盗に襲われた人にとつて隣人になったと思いますか」。37 律法に通じた男性は言った。「その人に対して憐れみ深く行動した人です」。イエスは言った。「行って、あなたも同じようにしなさい」）非常に大勢の人たちが外国で生活するようになっています。近所にもそうした人たちが住んでいるかもしれません。そのような人や家族みんなに敬意を示し、親切にするのは、とても大切なことです。

④ [レビ記 19 章](#)には述べられていない大切なこと

17-18. (ア) [レビ記 19 章 2 節](#)と[ペテロ第一 1 章 15 節](#)からどんなことを学べますか。 (イ) ペテロは、どんな重要な活動を行うよう勧めていますか。

17 [レビ記 19 章 2 節](#)「イスラエル人の民全体に告げなさい。『あなたたちは聖なる人であるべきである。あなたの神である私エホバは聖なる者だからであると[ペテロ第一 1 章 15 節](#)皆さんを招いた聖なる方のように、何をするにしても聖なる人であってくださいには、神に仕える人たちは聖なる人でなければならぬことが述べられています。[レビ記 19 章](#)のほかの節からは、どうすればエホバに喜んでいただくことができるかが分かります。2つの研究記事で幾つかの節を取り上げ、私たちがすべきことと、すべきでないことについて学んできました。*今回取り上げなかった節は、えこひいきをすること、中傷すること、血を食べること、心霊術、占い、性的不道徳について述べています。（[レビ 19:15, 16, 26-29, 31](#)。この号の「[読者](#)

からの質問」を参照。) これらはギリシャ語聖書でも教えられている点です。しかしペテロは、私たちが行うべきことについてさらに述べています。

18 私たちは、エホバに仕え、人々のためになる良いことをいろいろ行っています。ペテロは、何をするにしても聖なる人であるよう勧めるに当たって、1つの重要な点に注目しました。それは、「活動に備えて思考を整え」ことです。 (ペテー 1:13) それで、活動に備えて思考を整え、常に頭がさえた状態(*鋭敏な感覚/冷静さ)を保ってください。イエス・キリストが明らかにされる時に皆さんに惜しみない親切が示されるのを待ち望んでください、15 皆さんを招いた聖なる方のように、何をするにしても聖なる人であってください) この活動には何が含まれるでしょうか。ペテロは、天に行くよう選ばれた人たちは自分たちを招いてくださった「神の『卓越性を広く知らせる』」と言いました。 (ペテー 2:9) しかし皆さんは、神の「卓越性(d*徳: 神の優れた性質や行いのこと)を広く知らせるための、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、特別な所有物である民」です。神は皆さんを闇からご自分の輝かしい光の中に招き入れてくださいました) 現代のクリスチャンも、この最も重要で、人々の大きな助けとなる活動を行っています。聖なる人として、伝道や教える活動をいつも熱心に行うことができています。これは本当に素晴らしいことではないでしょうか。 (マル 13:10) また、全ての国の人々の間で、良い知らせがまず伝えられなければなりません) 私たちは、レビ記 19 章の教えを当てはめるよう努力することによって、エホバと人々への愛を示すことができます。そして、何をするにしても「聖なる人である」りたいと思っていることを示すこともできるのです。

レビ記 19 章からどんなことを学びましたか

1. 体が不自由な人たちに思いやりを示すことについて

・ S05 私たちクリスチャンはイエスの手本に倣いたいと思っています。それで、体が不自由な人に親切や思いやりを示し、穏やかに接するようにします。もちろん私たちは、エホバから奇跡を行いう力を与えられてはいませんが、文字通り目が見えない人や真理を知らない人たちに良い知らせを伝える務めを託されています。

2. いつでも正直であることについて

・ S07 不正確なはかりや計量容器を使って客をだますなら、盗んでいることになりました。・ S08 仕事で不正なことを行うなら、盗んでいることになります。

・ S10 雇い主の中には、働いている人がほかに仕事を見つけられないという弱みに付け込んで、本来の額よりはるかに少ない給料しか払わない人もいます。こうしたことを行う人は、「雇った労働者の賃金を……渡さずに持ってい」るようなものです。

3. 人に愛を示すことについて

・ S13 隣人に愛を示す1つの方法は、レビ記 19 章 18 節の言葉を当てはめることです。そこには、「復讐をしたり、恨みを抱いたりしてはならない」とあります。兄たちに仕返しできる立場になった時、そうするのではなく憐れみを示し、恨みを抱かなかったヨセフに倣える。

・ S15 深く傷つけられた場合はどうでしょうか。そのことについて何度も考えたり思い出したりするなら、傷口をつついているようなものです。恨みを抱き続けるなら自分を傷つけるだけです。

・ S16 非常に大勢の人たちが外国で生活するようになっています。近所にもそうした人たちが住んでいるかもしれません。そのような人や家族みんなに敬意を示し、親切にするのは、とても大切なことです。